

2018. 7. 4 (水)

## 新しい生き方を求めて

橋本 祐樹

一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。

(マルコによる福音書 1 章 21-28 節)

### 霊に取りつかれた男

会堂で、イエスが話をしています。今、このチャペルで、とイメージしてもいいかもしれませんが。礼拝の時、人々が集まっていた。そこにはイエスがおられ、ある男も座っていて、彼は「けがれた霊」に取り憑かれています。と聖書は記しています。そして、なんと突然、その男が叫びだす。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか」。イエスが応答する。「黙れ、この人から出て行け」。そのように「お叱りになると、汚れた霊はその人にケイレンを起こさせ、大声をあげて出ていった」。

汚れた霊に取り憑かれた男。礼拝で、突然に支離滅裂に叫び出す。イエスが叱る。する

と、その人はケイレンを起こし身体を震わせ、救われる。

聖書とか宗教とか、ちょっとなあ・・・と、思ってしまったくなる聖書箇所かもしれません。おどろおどろしい話です。宗教じみていると思う人もおられるかと思います。

でも考えてみると、現代にも通じている気がします。聖書は霊にとりつかれた人について繰り返し語ります。今日のマルコ福音書を読み進めると、同じように悪霊につかれた男の話があり、より詳しく書いていました。悪霊に取りつかれた男は「墓場」に住んでいた。町から離れた墓場で、一人で暮らし、その人は「石で自分を打ち叩いたりしていた」と。

町を離れた墓場に住み、誰とも交わらな

い、自分を認められず否定して、自分を傷つけて暮らしている。結構そんな人、いるのではないのでしょうか。霊に憑かれた男、彼は自分を見失っています。自分を否定しています。人との関係を閉ざし、心を開けずにいます。自分の道を見出せずに、混乱しているようでもあります。言葉にするかは別にして、叫びたいほどの気持ちを静かに隠しています。

もしかしたら、そんな人が身近にいるかもしれません。もしかしたら、見える形ではなくても、大なり小なり私たちの中に、いるのかもしれません。

### 牧師になって良かったこと

ある学生に、ある時、聞かれました。「牧師になってよかったことは何ですか?」。改めて考えてみると色々あるのですが、シンプルに一つ答えるなら、「人に、出来事に、よく出会えること」でしょうか。

教会の幼稚園では、こどもたちとたくさん出会いました。私にはこどもはいませんが、新しいいのちを祝福する、そういう瞬間を繰り返し与えられました。

人生の方向転換をするような、人が自分の生き方や思いを大きく変えていくプロセスに出会ってきました。祈りを知らない人が、祈れるようになっていく。人の言葉や生き方が本当に変わっていく。それは特別な瞬間です。

良い言い方ではないかもしれませんが、人が死んでいくその過程に、あるいはまさにそういう瞬間に、出会ってきました。危篤状態で、ベッドの上で横になっている人に、最後に手に触れて、肩に触れて、お祈りする。最

後にその方の好きな賛美歌を歌う。そのプロセスの中で本当に息を引き取っていかれる、そんなケースが例えばありました。

加えて言えば、牧師になって、「言葉との出会い」もとても多い気がします。教会は、多くの意味ある言葉に出会える場所でもあります。聖書はもちろんですが、牧師になってたくさんの言葉と出会える、というのも大きな要素でした。

ちなみに最近私が出会った文章の一つは、日本でもおなじみ、きかんしゃトーマス(米国版)のナレーターをしていた G. カーリンという人物が友人に贈ったとされる言葉でした。伝え聞いた話では、彼が最愛の妻を失った時に、この言葉を受け、友人に贈ったそうです。彼らしい批判精神が感じられる部分も多いように思います。読んでみましょう。尚、読みやすいように省略や意識等の手を加えていることをご了承ください

この時代に生きる私たちの矛盾。

ビルは高くなったけれど、人の気は短くなった。

高速道路は広く伸びているが、人の視野は狭くなった。

お金は使う、でも本当に得るものは少ない。

持ち物は増えた、でも本当に楽しむことは減った。

家は大きくなったが、家族の交わりは小さくなり、

昔よりもずっと便利になっているにも関わらず、自由な時間は減っている。

学のある者は増えているが、常識・良識のある者はめっきり減り、

その道のプロフェッショナルと呼ばれるひ

とは増えているのに、  
問題はいっこうになくならない。  
葉は増えた。けれど健康状態は悪くなって  
いる。

飲み過ぎ、吸い過ぎ、浪費する。  
心の底から笑うことは減っている。  
いつも人は急いでいて、すぐに怒るよう  
になっている。  
夜更かしが過ぎて、朝起きた時にはすでに  
疲れている。  
読書しなくなった分だけ、液晶画面ばかり  
を見続けて、  
祈ることばも忘れている。  
たくさん物を持っていても、自分の価値を  
信じていない。  
…誰かのために生きることは稀になって、  
憎むことが増えている。

食べていくための知識を増やしてはいて  
も、人生を豊かに生きること学んでな  
い。  
寿命は伸びた。しかし、本当の意味で生き  
ているのか。  
月まで行けるようになったというのに、身  
近な人とはトラブルばかり。  
宇宙を支配できたとしても、私たち自身の  
内面の世界はどうなんだ。

…空気清浄機を動かしながら、魂の汚れに  
は鈍感で、  
原子核をも生み出しているのに、差別をな  
くせない。  
急ぐことばかりを覚え、待つことを忘れて  
しまった。  
…添加物入りの食品のおかげで消化は遅

く、体は育っても、人格が小さい。  
利益や損得ばかりを考える私は、どこかに  
人を信じることを置き忘れてしまった。  
…レジャーは増えても、楽しみは少なく、  
たくさん食べ物に恵まれても、栄養は少  
ない。  
共働きで収入が増えたが、離婚も増え、  
見た目ばかり良い家は増えたけれど、その  
中身が壊れかけている。

忘れないでほしい。大切な人と共に過ごす  
時を持つことを。  
それは、永遠には続かないのだから。  
忘れないでほしい。そばにいてくれる人を  
ハグすることを。  
彼ら彼女らこそ、あなたが持っている一番  
の宝であり、  
しかも、これをするのには1円もかから  
ない。…

忘れないでほしい。もう会えないかもしれ  
ない人の手を握り、  
その時間を慈しむことを。…

人生はどれだけ呼吸をし続けるかで決まる  
のではない。  
どれだけ心のふるえる瞬間があるかで決ま  
るのだ。

後ではなく先に、生きはじめること

これを読んで私自身、ところどころ胸をつ  
かれるような気持ちがしました。語っている  
本人自身、自分を顧みている要素が大きい  
のだと思います。大切なものを失ってから本  
当に何が大切かをやっと見出した。そういう人

の言葉だと理解しても良いかもしれませんが、でも、本当なら、「それ」を失う前に、先に、新しく生きはじめたいものです。

けがれた霊に取りつかれて会堂で叫ぶ男。自分を見失っている。自分の生き方を見出せずにいる。叫びたい気持ちを抱えている。心を開けないでいる。自分を責めて、傷つけて、否定して暮らしている。一つの人間の象徴と言えるかもしれません。そのような人を、神が、イエスが、見つけてくださっています。

この今日の聖書の話で、見出させる物語としての特徴の一つは、物語の途中で主人公が消えていくその展開にあります。霊に取り憑かれて叫んでいた男、この聖書箇所、スポットライトが彼にあたります。彼が会堂で叫んでいる。彼がイエスに見出されて、身体を震わせている。そうやって、彼が救われていく。確かに、そこで私なら、読者として当然、救われたその彼がそのあとどうやって生きていくのか、気になります。でも今日の聖書は、それを語りません。例えば、別の聖書の物語では、ある人は救われて、そのあとイエスのことを言い広めています。今日の聖書の、物語の中心にいたはずの彼は、救われて、物語の途中で、唐突に消えていくのです。今日の聖書の、物語としてユニークな点

の一つはそこにあります。あの男の新しい生き方がきっとここから始まっていくのだけれども、その後の物語は描かれない。予感だけを残すのです。新しい生き方はここから始まっていくのだらうという、予感だけを。

私たちが生きている当たり前の毎日は、決して当たり前ではありませんでした。それぞれの大切なものに、かならず終わりがあるということも、知らされました。今日の聖書の中で語られていない物語の余白の部分、あの物語の続きをどう生きるかは、私たち読者に託されているのだと言っても良いでしょうか。

あの話の続きを、新しい思いをもって、どのように日々、豊かに生きることができでしょうか。

〈祈り〉

天の神様、この礼拝の静かなひとときを心から感謝いたします。私たちの日々の暮らしを、そして、そこで私たちが抱える様々な課題や思いをあなたはすべてご存知です。あなたに見出されて、受け入れられてはじまろうとしている今日という一日を、あなたが祝福してください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

(神学部助教)